

古里など題材に漢詩集

観音寺の高嶋さん発刊



高嶋睦徳さん

高嶋さんは民間企業を退職後、63歳から漢詩の創作を始めた。詠んだ作品は約650首に上り、成果として形にしたいと推敲に3年を費やして書籍化を実現した。

多岐にわたるテーマの漢詩を分類して「自然・震災」「名所・旧跡」「芸能・文化・スポーツ」など八つの章で構成。全ての

退職後創作、375首選ぶ

観音寺市粟井町の高嶋睦徳さん(81)が、創作した漢詩作品からえりすべりを収めた「寒雀〜還暦からの自作漢詩集〜」を発刊した。七言絶句375首をジャンル別に整理して収録し、古里の観音寺を題材にした漢詩が約50首、三豊市の漢詩が約20首含まれている。

詩の解釈や背景も掲載



七言絶句375首をジャンル別に収録した「寒雀〜還暦からの自作漢詩集〜」

作品について、読み方を振り仮名付きで掲載しているだけでなく、詩の解釈をした「通解」、背景などを注釈した「解説」を記しており、漢詩に造詣が深くない人も気軽に読むことができる。

観音寺にちなんだ作品では、琴弾八幡宮と三架

橋、銭形砂絵、寛永通宝、粟井神社、「天空の鳥居」などを題材にしており、人物では同市豊浜町出身の大平正芳元首相らを取り上げている。

タイトルの「寒雀」は収録している同名の詩から取った。冬の寒い日に保温のため丸くなっているスズメの様子を描写した作品で、「羽毛を膨らまし、じっと寒さに耐えている雀は、作者八十年の人生と重なっています」と記している。

高嶋さんは発刊に当たって20冊を市に寄贈。市は市内の図書館や公民館などに収蔵した。県立図書館にも3冊を贈った。

A5判391頁。価格は2750円。美巧社から初版500部を発行した。問い合わせは同社(087(833)5811)。